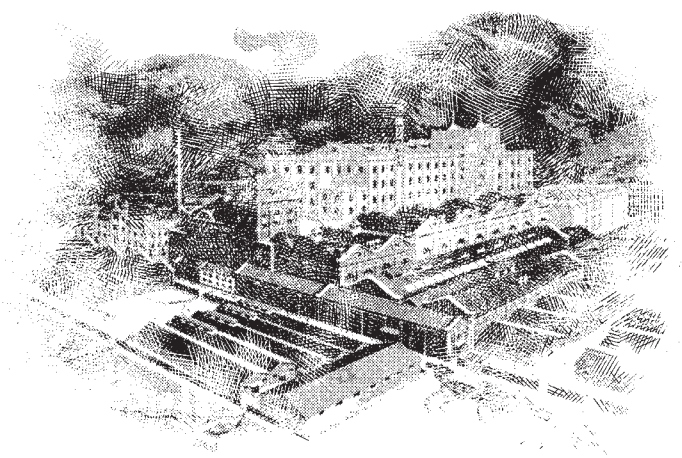
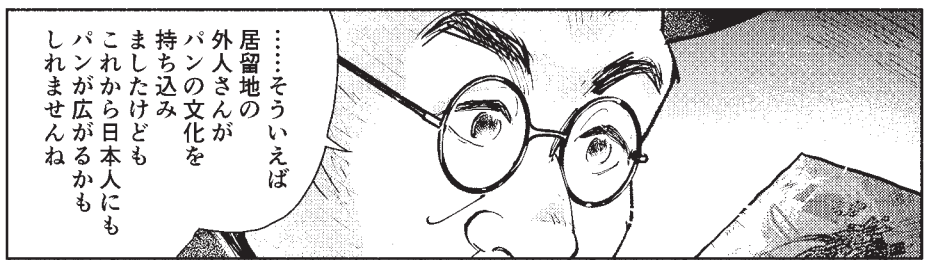


第4章

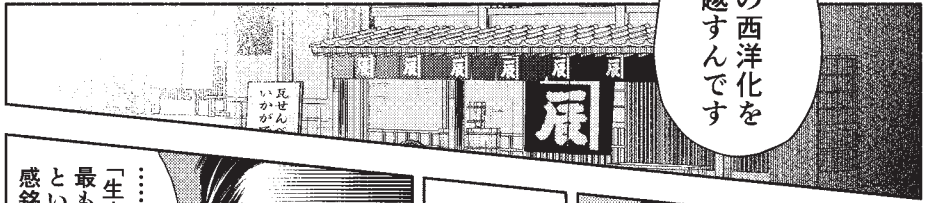
鈴木商店

小麦、ビール、新たな食文化への挑戦と多角化





食の西洋化を
見越すんです



はじめまして
米田龍平です



きみがドラゴン米田か
19歳でアメリカにわたり
製粉技術を学んだ
というのを知っている

次は君の技術を
鈴木のために
いや、日本の食の
豊かさのための力に
変えてくれんか



……僕は金子さんの
「生産こそ
最も尊い経済活動」
という言葉に
感銘を受けました



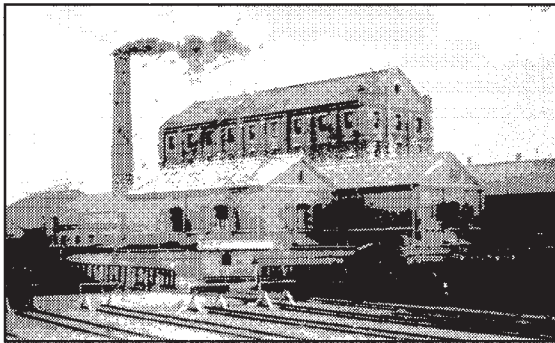
製粉のことなら
お任せください！

金子直吉は
さまざまな分野で
多彩な人材を
発掘していった



明治四四(一九一一年)
大里製粉所(その後、
現・ニッポンに合併)
を設立

米田の指導により
「赤ダイヤ」「緑ダイヤ」
の製品を売出し
たちまちに各地に
広まった



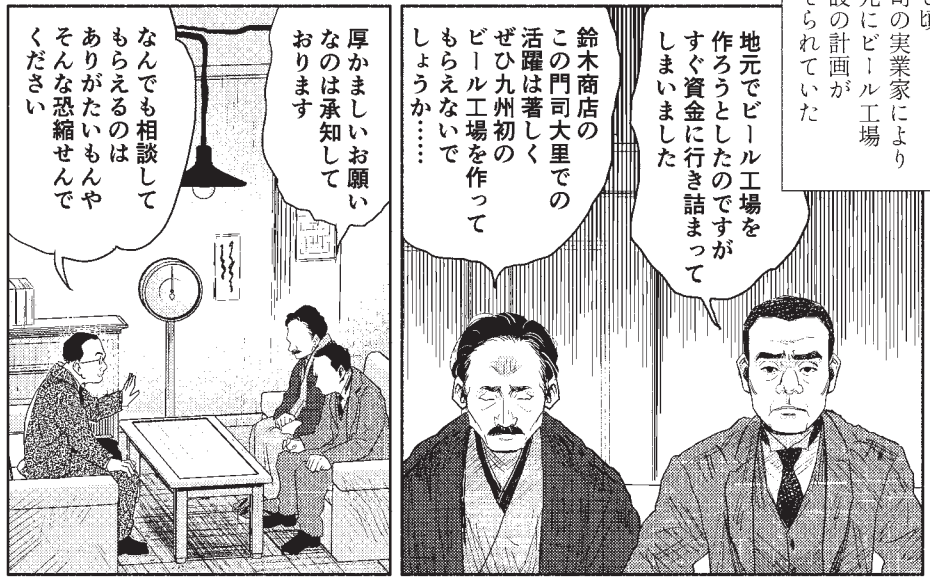
同じ頃
門司の実業家により
地元ビール工場
建設の計画が
立てられていた

地元でビール工場を
作ろうとしたのですが
すぐ資金に行き詰まって
しまいました

鈴木商店の
この門司大里での
活躍は著しく
ぜひ九州初の
ビール工場を作って
もらえないで
しょうか……

厚かましいお願い
なのは承知して
おります

なんでも相談して
もらえるのは
ありがたいもんや
そんな恐縮せんで
ください



という
ことは……



まず
大里製糖所から出る
原料を使ったら
どうだろう

建築は前田金次郎に
任せれば良い
彼は要塞みたいな
工場をつくるぞ

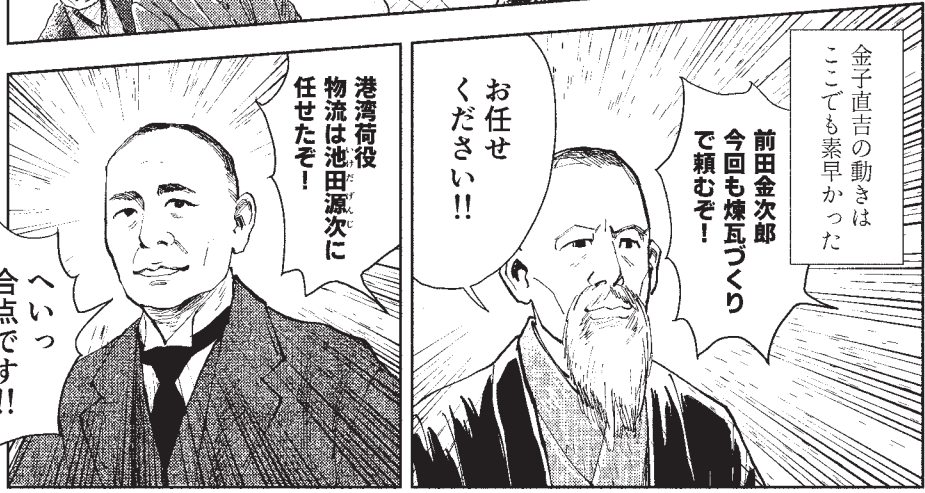




あつ！あとな
アルコールって実は
爆薬原料になるんや
工業用需要も増える
この際
焼酎もつくろう

焼酎蒸留のための
発酵原料(糖蜜、
フスマ、ビール酵母)は
隣接する大日本製糖
だけじゃなく
大里製粉所
今度建設する
ビール工場から容易に
調達できるじゃろ

実は宇和島の芋から
焼酎を作る会社も
鈴木が買おうと
思ってるんや……



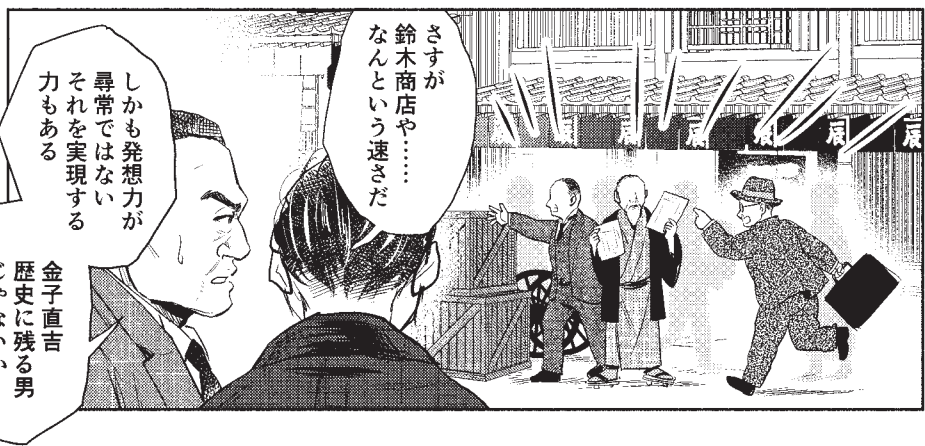
金子直吉の動きは
ここでも素早かった

前田金次郎
今回も煉瓦つくり
で頼むぞ！

お任せ
ください！！

港灣荷役
物流は池田源次に
任せたまぞ！

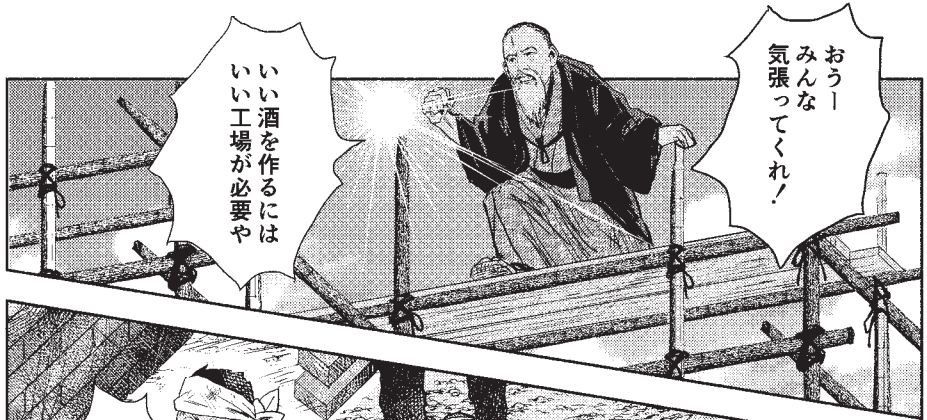
へいつ
合点です！！



さすが
鈴木商店や……
なんとこの速さだ

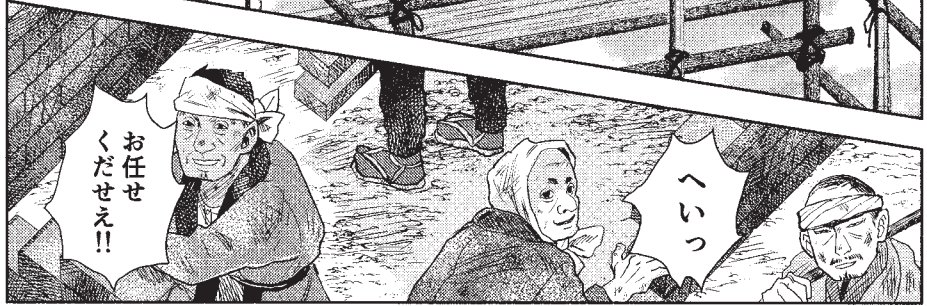
しかも発想力が
尋常ではない
それを實現する
力もある

金子直吉
歴史に残る男
じゃないか
あれは……



おうー
みんな
気張ってくれ!

いい酒を作るには
いい工場が必要や



お任せ
くださいませ!!

いっ

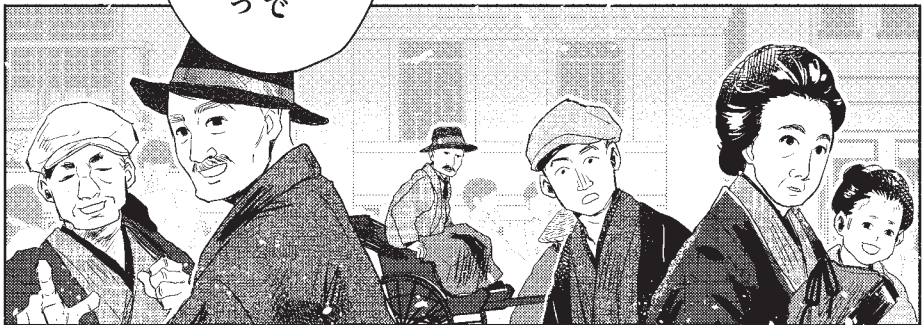
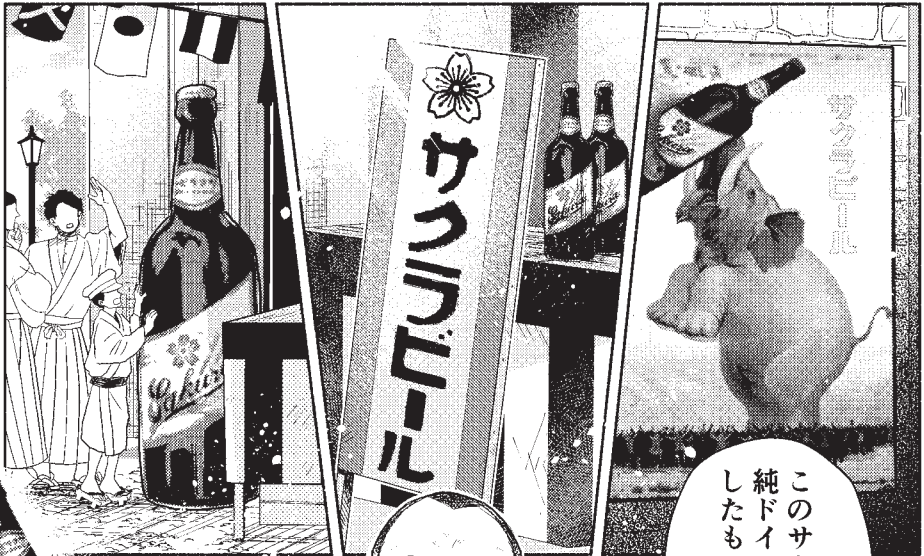


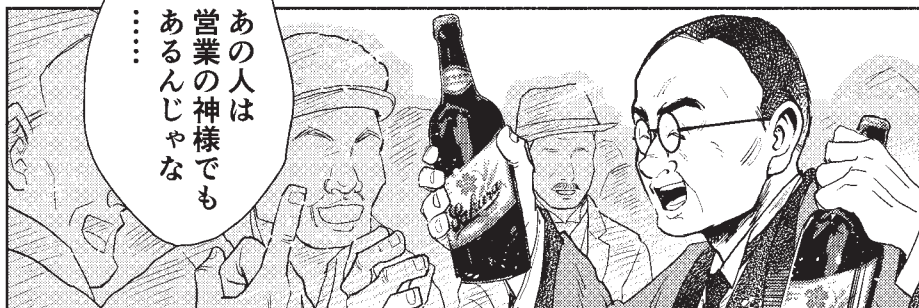
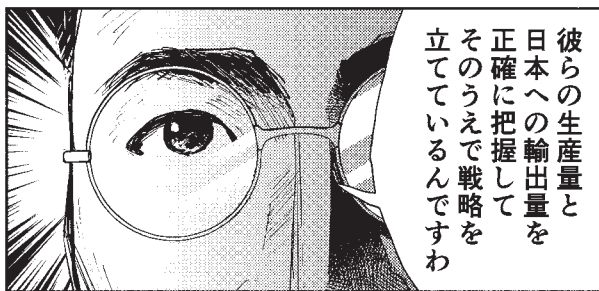
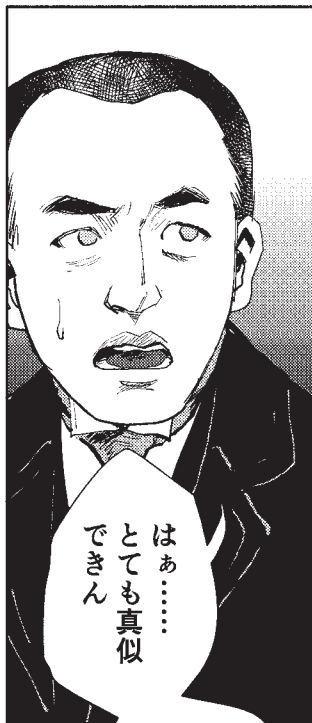
帝国麦酒のブランド
「サクラビール」は
全国約一割、第三位の
シェアを誇った



大正元(一九一二年)
帝国麦酒
(現・サッポロビール)
設立

大正三(一九一四年)
大里酒精製造所
(現・ニッカウキスギ)
門司工場)を設立
大正六(一九一七年)
宇和島の
日本酒類醸造を買収
タイヤ印の焼酎と
日の本焼酎の
2大ブランドは
売れに売れた







神戸の脇浜には
鈴木よねの
別邸があった

か
か
か
か



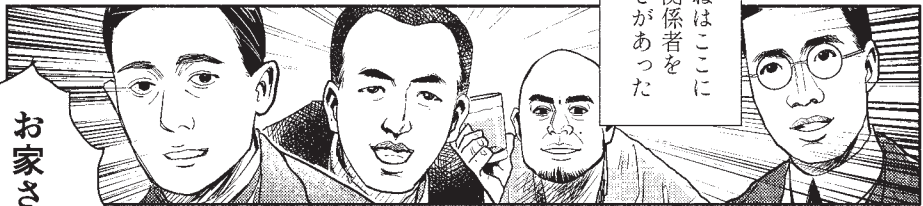
金子さんは
阪神と関門海峡は
鈴木マークで
埋めると言ってます

そうじゃ
大里は鈴木
の牙城だ
まだまだ
鈴木城は
でかくなるぞ



それと
台湾もだねえ

鈴木よねはここに
社員や関係者を
招くことがあった



お家さん



あっ
お家さん
すいません

気にせんと
飲みなさい

台湾は
後藤新平さんとの縁で
製糖工場を次々と
鈴木で買っていますから
大里製糖所を売却しても
鈴木は砂糖は
まだまだ伸びますよ

台湾は砂糖向きの
気候ですからね



台湾といえば
桂首相おるじやろ
元台湾総督や

金子さんは
桂さんの縁で
台湾産塩の販売権を得て
今度は日露戦争後に
租借地となった
中国関東州(遼東半島)で
大規模塩田開発
やるらしい



砂糖の次は塩！
そのうち食卓が
鈴木で埋まりますね

ははは

そうなるかもしれんな
鈴木の大日本塩業
(現・日塩)
先が楽しみやのう

では
大里にもある
再生製塩工場
その原料の塩は
台湾と関東州から
持ち込まれて
いるんですね

そうやな
あと煙草じゃ



鈴木商店は
樟脳や台湾の関係で
専売局と縁がつよい
金子さんと同郷の
浜口雄幸さんが
専売局にいたんだが
欧米による中国の
煙草市場独占を危惧
した金子さんが
浜口さんに国策会社
「東亜煙草」の設立を
進言したらしいわ



いやいやそないな
ことないで
任せた
直どんの器量や

お家さんの決断
あつての
鈴木ですからね

米星つて
お家さんの名前
じゃないですかっ

はははっ



そういえば直どんがな
山東省にある煙草会社を
鈴木傘下にして
いづれは社名を
米星煙草
にしたいと
いつてきたなあ



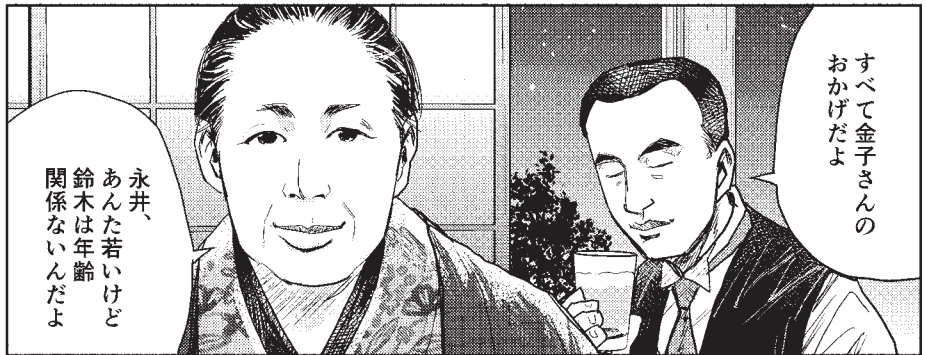
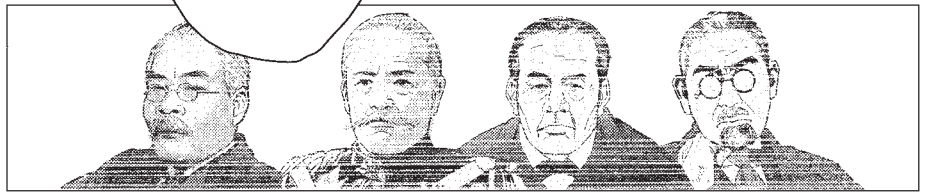
そうや
人の命を預かる
からつて
柳原伯爵に社長に
なつてもらつた
言うてたわ

金子さんは
同じ土佐出身で
浜口さんとは
特に仲が良い
みたいですね
資金集めの手段として
生命保険があると
教えたのも浜口さんだと
金子さんさつそく
日本教育生命保険と
大正生命保険をつくつて



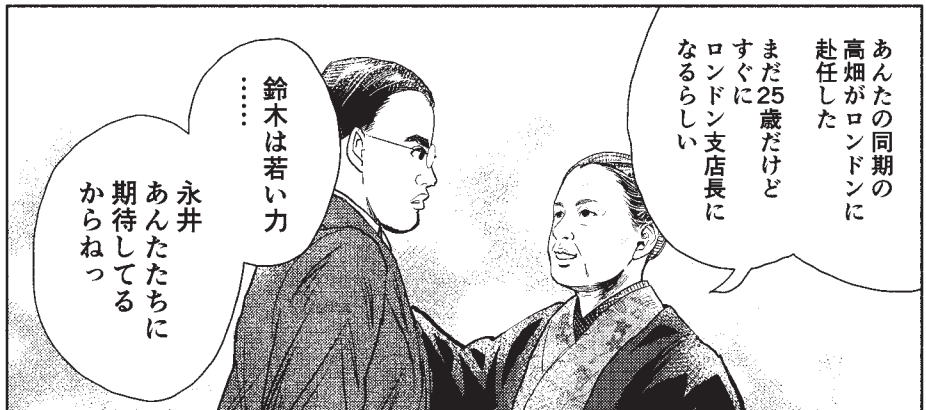
……はあ、
それにしても
鈴木商店は
大里製糖所の設立から
すごい躍進ですね

後藤新平さん、
渋沢さん、桂さん、
浜口さん……
日本を動かして
いる人ばかりじゃ
ないですか？



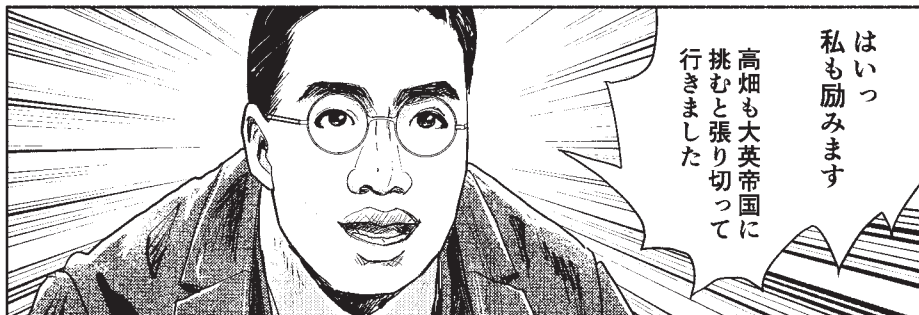
すべて金子さんの
おかげだよ

永井、
あんた若いけど
鈴木は年齢
関係ないんだよ



あんたの同期の
高畑がロンドンに
赴任した
まだ25歳だけど
すぐに
ロンドン支店長に
なるらしい

鈴木は若い力
……
永井
あんたたちに
期待してる
からねっ



はいっ
私も励みます
高畑も大英帝国に
挑むと張り切って
行きました

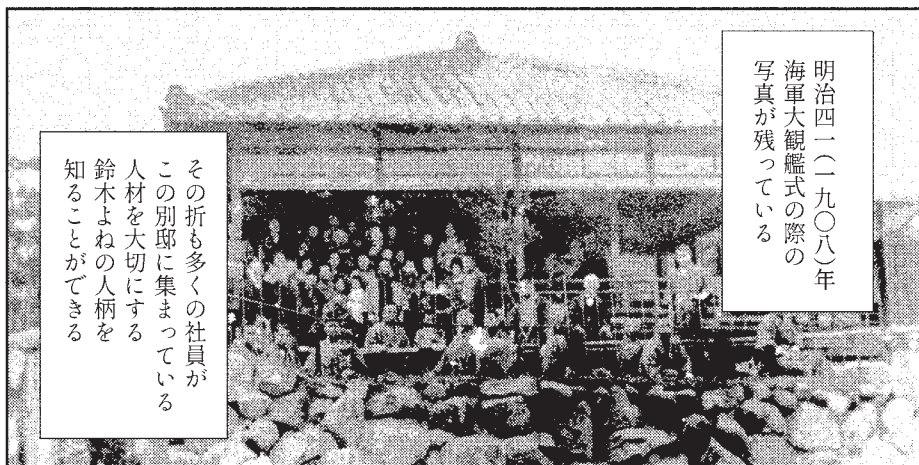


高畑が
なんだってえ？
田宮さんも
一〇〇〇トン
プレスを買いに
渡英するんやぞ

ははは

西川あなたは
数字と管理は
しっかり頼むわよ
あなたは直どんと
逆のタイプだから
いいのよ

はいっ！



明治四一（二九〇八）年
海軍大観艦式の際の
写真が残っている

その折も多くの社員が
この別邸に集まっている
人材を大切に
鈴木よねの人柄を
知ることができる

そういえば
金子さんは相変わらず
人工的にシルクを
製造する人絹に
拘っているそうで……

そやそや
金子さんを
訪ねてた
専売局の若者の
秦ついでにやろ
あみえて
東京帝国大学
応用学科を
卒業した秀才
らしい

東京帝国大学応用
科専売局の
秦三と
神戸三と
秦三と
いいます
出て樟脳専売局や神戸税関
勤めましたが自分の能力を
活かして何かやってみたい

何かおもしろい仕事は
ありませんか？
……では
人造絹糸を研究して
みてはどうじゃ？

あの後
専売局を退職した
らしいんやけど……

秦は
米沢高等工業学校
応用化学科の講師
として赴任した



秦先生、研究ばかり
やっていないで
授業をしつかり
やってくださいよ

人絹？そんなもん
日本人がつくれるか
秦君、研究室の薬品を
使うの禁止する

しかし赴任先でも
研究に没頭していた

ちつ
日本を文明国に
するために大事な
研究なんだ……
なぜこの価値が
わからない……！

秦は研究に
没頭するあまり
自費で薬品を購入し
米をかうお金すら
使ってしまった

ぐうぐう

……



うーん……
 そういえば鈴木商店に
 私の帝大同期の
 久村清太がいるはずだ
 在学中に取得した
 艶消レザーの特許が
 鈴木(トク)の目にとまって
 会社を立ち上げたはず
 たしか東レザーと
 いったか……
 やつに頼ってみよう



金子さん
 秦からこんなものが
 光沢も強度も
 ないんですが……

このとき秦が
 送ったサンプルは
 まだ製品化には
 遠いものであった

ほーせやけど
 系には相違はない
 大したもんや



秦から手紙？
 これは
 人絹サンプルか
 大変なようだ
 ともかく
 金子さんに
 見せてみよう



久村お前
 秦と同じ大学の
 同じ学科だろう
 助けてやって
 くれんか？

なんか

いやな

予感……

……はい
 わかりました

秦の人絹研究は
 鈴木商店の援助で
 なんとか続け
 られることになった

金子さん、
いわれた通り
その後も秦は
人絹の研究を続けて
おります
ただ研究資金が
足りない……

まあ
農務省の
補助金申請は
時間がかかる
鈴木が
出してやろう

ありがたい
これで研究が
続けられる！

資金を得たものの
秦の研究は困難を極め
疲労と二硫化ガス中毒のため
幾度も倒れることになる

こんなことで
へこたれて
たまるか

また
研究に没頭するあまり
講義を忘れるようになり
周囲の反感もより
高まっていった

大竹校長先生
また秦先生が
講義に来て
いません……

仕方ない私が
代講してやろう
彼は遊んでいる
わけではない
日本人の未来の
ために研究して
おるんじや

いずれ化学の
重要性をみな
理解するじやろ
……

校長は秦の研究に理解があったが学校全体としてはそうではなかった



学校側が三万円の追加寄付を断ってきました
秦がこれ以上人絹の研究をするのを嫌がっている
そうです

ほー……おもろい
いいか、
日本の繊維原料は全部輸入じゃ



国産原料による繊維
しかも化学の力で
安くシルクをつくる



これは絶対
あきらめない



秦の研究は
なんとしても
続けさせるぞ



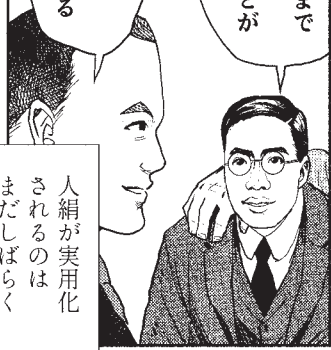
は
はいいい……

……と
まあこんな
感じでな東京帝大
応用学科の天才と
これもまた天才と
金子さんの
劇を見ているよう
なもんでな



金子さんがそこまで
入れ込むのなら
きつとすごいことが
起きますよ

うむ
実は俺も
そう思ってる

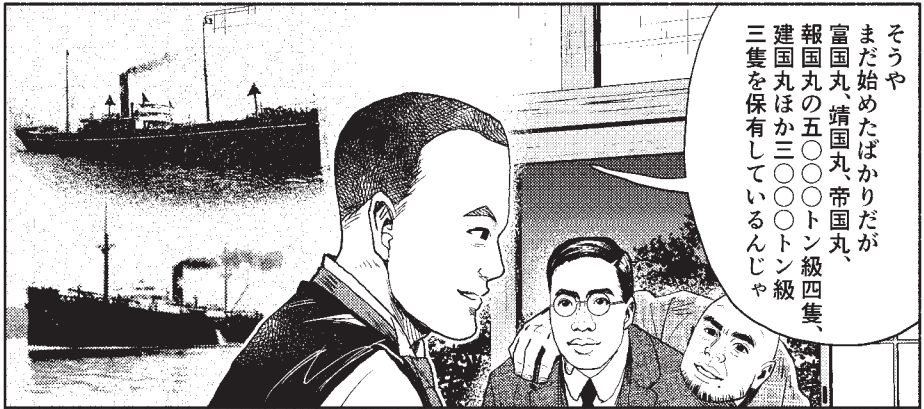


人絹が実用化
されるのは
まだしばらく
先のことである……

そういえば
鈴木商店が
備船ではなく
自社船舶を保有し
世界中の海に船を
並べるとか噂に
なっていますよ



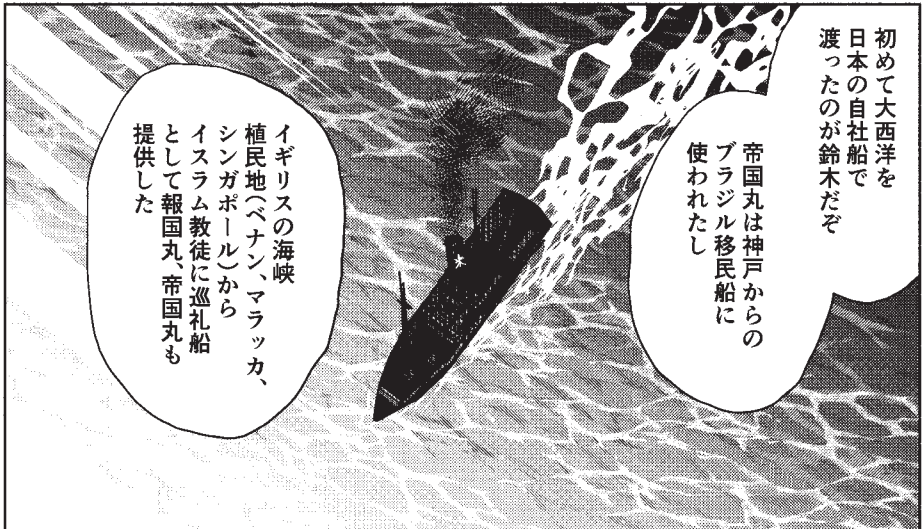
そうや
まだ始めたばかりだが
富国丸、靖国丸、帝国丸、
報国丸の五〇〇〇トン級四隻、
建国丸ほか三〇〇〇トン級
三隻を保有しているんじゃない

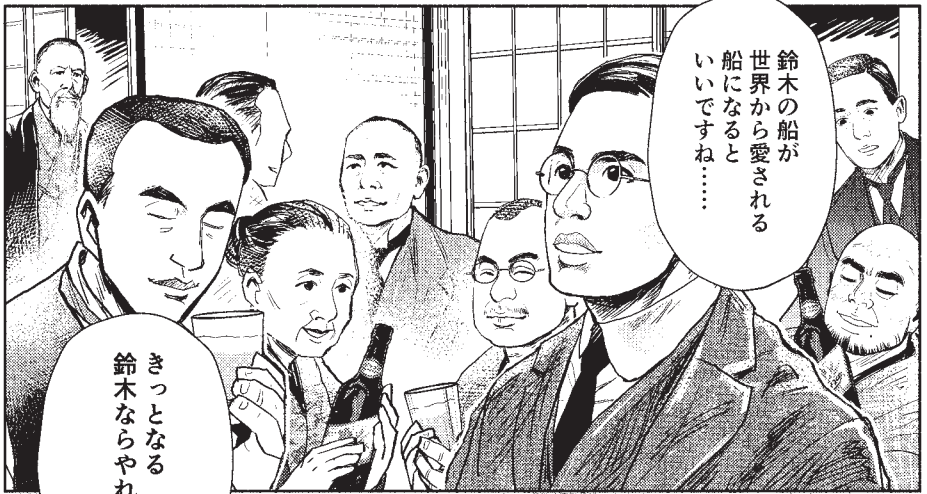


初めて大西洋を
日本の自社船で
渡ったのが鈴木だぞ

帝国丸は神戸からの
ブラジル移民船に
使われたし

イギリスの海峡
植民地(ペナン、マラッカ、
シンガポール)から
イスラム教徒に巡礼船
として報国丸、帝国丸も
提供した





鈴木が船が世界から愛される船になるといいですね……

きつとなる
鈴木ならやれるさ

この時期
鈴木商店の躍進には
目覚ましいもの
があった

それは大正という
新たな時代の訪れに
あたかも呼応するが
ごときであった



御一新からの
長かった
明治が終わって
時代は大正へ……

これからどんな
世界になるんか
できるところまで
見届けさせて
もらいましょかね

鈴木の快進撃は
始まったばかりじゃ

世界は広い
我らが先陣に立ち
開拓する

外国に頼らない
日本の産業
自分たちの
モノづくりこそが

真の産業革命だ

